

# 小学部 第1学年〇組 道徳 学習指導案

授業者 担任 川尻 年輝

- 1 場所・日時 1年〇組教室 平成29年〇月〇日 5校時  
 2 主題名 「大なわとび」(B-4 友情・信頼)  
 3 主題設定の理由

(1) 価値観(ねらいとする価値について)

新学習指導要領「特別の教科道徳」では、第1学年及び第2学年の友情・信頼の内容として、「友達と仲よくし、助け合うこと」と記されている。この中の「助け合うこと」に注目して仲良くすることについて考えてみると、自分の思いだけで仲良くしていくということではなく、助け合うことは相手をじっくりと見なければ助けられないことであり、そこには相手の立場を考えたり相手の気持ちを察したりといった、相手軸を大切にしていける考え方が大切なのではないかと考える。

(2) 児童観(児童の実態)

小学校1年生のこの時期、1学期に比べて相手の立場に立った行動はいくぶん見られるようになってはきているが、まだまだ自分本位に考え行動していることが多い。自分の思いのみを貫こうとするために、友達同士トラブルになることがある。

この題材で、友達同士が助け合うことの大切さを考えることを通して、自分本位にならず相手の立場に立った声かけや行動の大切さに気付いてもらいたい。

(3) 資料観(資料の価値)

本資料は、大なわとびができないみつおさんに寄り添えないけんじさんたちが、周りの子の対応を見て、次第に気持ちが変わり、みつおさんを助け協力し合うようになるというお話である。

みつおさんの気持ちの変化を考えることで、つい自分本位になってしまい、相手の気持ちや立場を考えられない子どもたちに響きやすい資料である。具体的には、物語の最初にけんじさんやまさしさんから責められた時のみつおさんの気持ちを考えたり、すみ子さん・とも子さん・ゆみさんから励ましの言葉を聞いた時のみつおさんの気持ちや、物語の終末場面でまさしさん・けんじさんから「よし、やろう!」と言われた時のみつおさんの気持ちを考えたりすることで、相手の立場に立った行動が大切であることが伝わる資料である。

4 本時の指導

(1) 研究主題に迫るために

① 目指す児童の姿

座席の隣同士で、話し合いを重ねながら相手の立場を考えて行動しようとする気持ちを高め合う姿

② 手立て

分かる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の粗筋や状況が分かるようなイラストを掲示しながら、視覚支援する。</li> <li>・様々なロールプレイを行い、問いの状況把握ができるよう支援する。</li> <li>・文部科学省JSLカリキュラムの体験→探求→発信型の授業展開を基にしながら、AU(話型)を用いた発問を重ねる。【発問】</li> </ul>
楽しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の児童の姿や意見、発問等を積極的にほめる。</li> <li>・友達との対話をたくさんとり、自分と同じ意見や違う考え方に触れる。【話し合い】</li> </ul>
学び合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアトークやグループトークの時間を確保し、互いの意見を伝え合うことにより思考を深める。【話し合い】</li> <li>・主人公への手紙を通して、他の友達の考え方を知る。</li> </ul>

(2) ねらい

大なわとびがうまく跳べなくて困っているみつおさんの気持ちを、ロールプレイや友達との対話を通して考えたり、終末場面でみつおさんに手紙を書いたりすることを通して、相手の気持ちや立場を考えて行動しようとする気持ちを持つことができる。

(3) 資料

中心資料名「大なわとび」 出典「信濃教育出版社 わたしたちのみち」

(4) 児童の成長の見取り

認識	相手の気持ちや立場を考えて行動する大切さが分かる。
受容	相手の気持ちや立場を考えて行動する大切さが分かり、自分の考えを持つ。
展開	相手の気持ちや立場を考えて行動しようとしている。

(5) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	・指導上の留意点 支援(○) 見取り(◎)	時間
導入 (体験)	1. 先生の質問に対し、友だちと相談する。 みなさんは、苦手なことがありますか。 2. 児童代表の子のロールプレイを見る。 苦手なことを友だちから責められたら、どんな気持ちになりますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるよ。</li> <li>・野菜が苦手。</li> <li>・プールが苦手。</li> <li>・算数が苦手かも。</li> <li>・早起きが苦手。</li> <li>・はらがたつ。</li> <li>・ムカつく。</li> <li>・悲しい。</li> <li>・嫌な気持ちになる。</li> <li>・やる気がなくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任の発問に対して、隣の友だちと話し合う。(ペアトーク)</li> <li>○児童の代表1名に前に出てきてもらい、担任から責められるロールプレイを行う。</li> <li>○責められる立場の子の気持ちを隣の友達と話し合う。(ペアトーク)</li> </ul>	5
展開	2. 「大なわとび」のお話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなお話かなあ。</li> <li>・大なわとびをぼくもやった</li> </ul>	・「大なわとび」のお話を読み、概要をつかませる。	6

1	<p>「大なわとび」というお話を勉強します。どんなお話なのか、聞きましょう。</p>	<p>ことがあるぞ。みんなで跳ぶ話かな。 ・しっかり聞こう。</p>	<p>○話の概要がつかみやすいように、イラスト教材を黒板に貼っていく。 ・子どもが場面把握しやすいように、3つの段落にわけて話を展開していく。</p>	
展開2 (探求1)	<p>3. 大なわとびにひっかかって転んでいるみつおさんの気持ちを考える。</p> <p>けんじさん・まさしさんから、きつい言葉を言われた時、みつおさんはどう思ったでしょう？</p>	<p>・なんでぼくばかり跳べないんだろう。悔しいなあ。 ・どうしよう。みんなに責められてしまうなあ。 ・もうやだ。一緒にやりたくない。 ・やる気をなくす。 ・こわい。 ・すごく悲しい。 ・自分が情けない。 ・とても悲しい</p>	<p>○担任がけんじさんやまさしさん(責める)役になり、クラス全員の子どもに対し、演技を行う。 「だめだ、みつお ぬけてろよ！」 「みつおが、いつもすぐひっかかってしまうから、ぼくたちのはん、また大なわとび大会でまけちゃうよ。」 ○隣の友だちとみつおさんの気持ちを話し合う。(ペアトーク) ○自分が苦手なことに重ね合わせて考えるよう声がけする。</p>	6
展開3 (探求2)	<p>4. みんなに励まされた、みつおさんの気持ちを考える。</p> <p>すみ子さん・とも子さん・ゆみさんの言葉を聞いた時、みつおさんはどう思ったでしょう？</p>	<p>・うれしいけど、けんじさんやまさしさんがこわいな。 ・ありがとう。 ・やさしいなあ。 ・もう一回がんばってみようかな。 ・練習をがんばるぞ。 ・ぼくの気持ちをわかってくれた。</p>	<p>○隣の友だちとみつおさんの気持ちを話し合う。(ペアトーク) 「みつおさん、元気を出して。もう一どやってみたら。」 「みつおさんは、いえにかえると、毎日れんしゅうしているのよ。おとうさんとおかあさんになわをまわしてもらって、いっしょうけんめいとんでいるのを、わたしなんか見えたの。きっとできるようになるわ。」 「みつおさんが、じょうずにとべるように、はじめはゆっくりまわして。」 「けんじさん、とび上がるとき、みつおさんのかたをぼんとたたいて。」</p>	6
展開4 (探求3)	<p>5. まさしさん、けんじさんから誘われた、みつおさんの気持ちを考える。</p> <p>(中心発問) けんじさんからおおなわとびを「よし、やろう!」と、てをとられたとき、みつおさんは、どうおもったでしょう？</p>	<p>・よかった。安心。 ・ほっとしたな。 ・ますます、うれしい。 ・ちょっと、がんばってみようかな。 ・やる気が出てきたぞ。 ・みんなで頑張りたい。 ・絶対、うまく跳べるようになりたいな。</p>	<p>○担任が、まさしさん、けんじさん役になり、クラス全員の子どもに対し、演技を行う。 ○4人グループをつくり、まさしさん、けんじさんから大なわとびを誘われたときのみつおさんの気持ちを考え話し合い発表する。 ○各グループの発表後、なぜそう考えたのか問い返しの発問を行う。</p> <p>◎けんじさんから大なわとびを「よし、やろう!」と、てをとられたときの、みつおさんの気持ちに寄り添うことができたか。 (話し合い・発言)</p>	12
まとめ (発信)	<p>6. みつおさんに手紙を書くことを通して、今日の学習のまとめを行う。</p> <p>みつおさんに書いた手紙について、発表してください。</p>	<p>・みつおさん、今は大なわとびがうまく跳べないかもしれないけれど、大丈夫だからね。 ・ぼくも一緒に、練習手伝うよ。 ・ドンマイドンマイ、少しずつ上手くなっているよ。みんなで頑張ろうね。 ・みつおさん、みんなと大なわとびできるようになってよかったね。</p>	<p>・みつおさんへの手紙を配布する。 ・机間巡視を行い、全体発表として、代表1～2名に発表させる。</p> <p>◎みつおさんに手紙を書くことを通して、相手の気持ちや立場を考えて行動しようとする気持ちを持つことができる。 (手紙)</p>	10

## 6 実証の観点

- ・大なわとびがうまく跳べなくて困っているみつおさんの気持ちを、ロールプレイや友達との対話を通して考えたり、終末場面でみつおさんに手紙を書いたりすることを通して、相手の気持ちや立場を考えて行動しようとする気持ちを持つことにつながったか。

**\* 教材研究 \***

**【資料 JSLカリキュラム】**

JSLカリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動に支障が生じている子どもたちに対して、学習活動に参加するための力の育成を図るためのカリキュラムである。そのねらいを簡潔に表現するならば、日本語の習得を通して学校での学習活動に参加するための力の育成を目指したものである。これを実現するために、子どもたちの体験を日本語で表現したり、学習の過程やその結果を日本語でまとめたり、さらには学習したことを他の子どもたちに向けて日本語で表現したりといったように、日本語による「学ぶ力」の獲得を目指している。

**【資料 AU】**

AU は「Activity Unit」(活動の単位) の略で、子どもに必要な「日本語で学ぶ力」を小さな単位に分け、教室での様々な「学び」を促す場面において多用される教師の発問・指示語を体系化したものである。

\* 文部科学省 HP 『学校教育における JSL カリキュラムの開発について』(最終報告) 小学校編  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm)

**【本時に関わる AU 一覧 (全体)】**

共通のAU	本授業での表現例
<p>(体験) A-4 AU: 経験を確認する②  「経験の有無を確認する-2」  T: A したことはありませんか。  S: はい、しました。/ B ならしたけど、A はしませんでした。</p>	<p>T: みなさんは、苦手なことはありませんか。  S: はい、あります。~です。/ ありません。</p>
<p>(探究) H-8 AU: いろいろな視点で考える③  「他の人の立場で考える」  T: ~さんなら、どう思うでしょうか。  S: ~さんなら、~と思うと思います。</p>	<p>T: 苦手なことを友だちから責められたら、どんな気持ちになりますか。  S: わたしなら、~な気持ちになります。</p> <p>T: けんじさん・まさしさんから、きつい言葉を言われた時、みつおさんはどう思ったでしょう。  S: みつおさんは、~と思いました。</p> <p>T: すみ子さん・とも子さん・ゆみさんの言葉を聞いた時、みつおさんはどう思ったでしょう。  S: みつおさんは、~と思いました。</p> <p>T: けんじさんからおおなわとびを「よし、やろう!」と、てをとられたとき、みつおさんは、どうおもったでしょう?  S: みつおさんは、~と思いました。</p>
<p>(発信) K-5 AU: わかったことを表現する①  「わかったことを表現する」  T: どんなことがわかったか発表してください。  S: ~ということがわかりました。</p>	<p>T: みつおさんに書いた手紙について、発表してください。  S: みつおさんへ わたしは~</p>